

代々木大山公園仮設校舎整備計画に関する近隣・公園利用者説明会 ご質問・区の考え（統合版）			
開催日：2026年6月19日(金)／2026年6月25日(木)／2026年7月18日（土）			
ご質問			区の考え
計画決定プロセスに関するご質問	1	公園に仮設校舎を建てる決定をした手続を示してほしい。	本計画については教育委員会にて決裁されております。また、区議会にて本計画に関する予算の承認をいただいたほか、本計画を含む学校建て替えロードマップの全体計画についても報告しております。
	2	仮設校舎ありきではなく、公園に建てること自体を議論すべきではないか。仮設校舎建設はすでに決まったことなのか。代々木大山公園に建設することを勝手に決めないでほしい。	本公園に仮設校舎を整備すること自体は区の施策として決定しておりますが、校舎配置や公園機能の維持方針などについては、今後も皆様からご意見を伺い、検討を進めてまいります。
	3	ロードマップは今後も工期や費用が変わる可能性があり、再改定すべきではないか。	ロードマップについては、現下の建設市況等を踏まえ、令和8年3月に改定いたしました。そのため、現時点において改定は考えておりませんが、引き続き、社会情勢の変化等を踏まえ必要に応じ適切に見直しを行ってまいります。
	4	30年間の財政負担や少子化を踏まえ、建て替えと長寿命化を組み合わせたロードマップを作成するべき。	建設市況の変化だけでなく、児童・生徒数の将来推計や改修・改築コスト等も踏まえ、令和8年3月にロードマップを、同年6月に学校施設長寿命化計画を改定しております。
	5	住民意見はどのように記録・報告・反映されるのか。	説明会記録やホームページ等で整理し、今後の検討に活用してまいります。また、基本計画を策定する前の段階でホームページなどで広く周知し、ご意見を反映してまいります。
	6	建て替えロードマップについて、区民全体への周知や意見聴取が不十分である。	「渋谷区学校建て替えロードマップ改定検討委員会」にて代々木大山公園仮設校舎の使用計画を含む改定ロードマップを作成し、区ホームページやしぶ区ニュースにて周知しております。
	7	説明会の配布資料を事前公開してほしい。	説明会の配布資料の事前公開は難しいですが、議題については説明会1週間前を目途にお知らせいたします。
法的根拠・許認可に関するご質問	8	公園内に仮設校舎を建てる法的根拠を示してほしい。	建築基準法、都市公園法等の関係法令に基づく許可が必要であることは認識しており、所管部署に確認の上、計画を進めております。
	9	許可を取得してから計画を進めるべきではないか。	許可の取得のためには、具体的な配置と規模等の確定が必要であり、実施設計段階で取得するものです。現在、関係所管部署と事前確認を行っており、今後、適切な時期に許可を取得し計画を進めてまいります。
教育事業・技術的事項に関するご質問	10	老朽化の根拠や危険箇所を示してほしい。	学校施設長寿命化計画の中で検討しているため、第2回の説明会にてお示しいたします。
	11	建て替えではなく耐震補強や長寿命化で対応できないのか。	現在の区の学校施設は耐震診断・補強を完了しており、長寿命化については対応済ですが、区としては国の指針などを踏まえ、コンクリートの寿命は約80年程度を目安と考えています。そのため、ロードマップを作成し、順次建て替えを進めさせていただいております。
	12	建て替えについて、第三者の判断も含めて検討すべきではないか。	建て替えロードマップの改定について、学識経験者の意見も踏まえ、検討しております。また、個別の学校の建て替えについては、建て替え準備委員会を立ち上げ、検討しております。
	13	仮設校舎の費用はどの程度か。3,700億円という総額との関係を確認したい。	現時点では仮設校舎は約50億円程度と見込んでいます。約3,700億円は、30年間のロードマップ全体の総額費用であり、建て替え工事だけでなく、その間の改修工事等も含んだ金額になります。
	14	西原キャンパス計画時と学校人数・状況が変わっているのではないか。学校建て替え前に学校規模の再検討をすべき。	学校施設長寿命化計画の中で検討しているため、第2回の説明会にてお示しいたします。
	15	各学校について、本当に建て替えが必要か精査すべき。	渋谷区学校施設長寿命化計画を策定するにあたって、学校毎の劣化度について評価しており、現在のロードマップは、当該計画に基づいて策定しております。
	16	富谷小・上原小の児童にとって通学距離や坂道、交通安全の負担が大きい。	スクールバス、交通機関補助、警備員配置などを検討し、安全確保と負担軽減を図ってまいります。
	17	保護者や児童の意見を聞いているのか。	今後、各学校の建て替えスケジュールに合わせた適切なタイミングで、対象者に説明してまいります。
	18	建て替え期間中に近い学校を選択できないか。	小学校は原則的に学区区域制度を採用していますが、同時に調整区域制度もあるため、建て替え時期が近づいた段階で検討してまいります。
	19	全校を同じように立派に建て替える前提にこだわりすぎではないか。	プール等の一部機能を複数校で共有するなど、学校施設全体のボリュームを抑える工夫検討はしていますが、教育環境については、極力地域差が生じないように整備していきたいと考えております。
	20	仮設校舎のような簡易な校舎を本設にも活用し、低コスト化できないか。	仮設校舎と本設校舎は使用期間や役割が異なります。仮設校舎は15年程度、本設校舎は100年程度の利用を前提に整備する方針であり、長期的なコストの観点から計画しております。
	21	学校ごとの劣化状況や長寿命化検討の根拠を具体的に示してほしい。	学校ごとの劣化状況等については「渋谷区学校施設長寿命化計画（第3章 学校施設等の実態・課題）」にて掲載しております。詳しくはホームページをご確認ください。 https://files.city.shibuya.tokyo.jp/assets/12995aba8b194961be709ba879857f70/3970750f08be49f4bd74f08c539a9d6f/gakko_tyojyummyoka_03.pdf
	22	大山仮設校舎利用の1校目である笹塚中利用時は教室が余るのではないか。	笹塚中学校の利用後、上原小学校・富谷小学校が利用するため、校舎規模については最大人数に合わせて計画しております。なお、笹塚中学校利用時の空き教室については、少人数教室利用や地域開放等の活用を検討しています。また、複数回にわたって工事を行うことは地域負担や教育環境の観点から望ましくないと考えています。

代替地・計画の見直しに関するご質問	23	人口推計などを踏まえ、建設ありきで進めているのではないか。	学校施設長寿命化計画の中で検討しているため、第2回の説明会にてお示しいたします。
	24	代々木公園について東京都と協議したのか。	東京都と協議した結果、難しいとの回答を得ています。その他、複数の候補を検討し協議しましたが、良い回答は得られていません。
	25	小規模校の課題を踏まえ、統廃合や小中一貫校化を検討すべきではないか。	小規模校の良さと通学距離、避難所確保等を考慮し、現段階で統廃合する考えはありません。なお、本仮設校舎を利用する予定の学校で申し上げると、笹塚中学校は、笹塚小学校との小中一貫教育校化を行う計画です。
	26	もっと以前から代替用地や避難場所を確保すべきだったのではないか。	今回のロードマップ改定の中で初めて当公園を校舎用地として検討したわけではなく、当初案の作成時においても候補地の1つとして比較検討しておりました。
	27	他校の空き教室を使い、学年ごとに分散して通う方式にすれば、仮設校舎は不要ではないか。	1校分の児童・生徒を全て受け入れられる空き教室が発生している学校はないことから、運用には複数施設間の移動が必要となり、安全確保や学校運営の一体性確保が困難であると考えます。
	28	代替地交渉の議事録や経過を公開してほしい。	相手方の事情や今後の交渉への影響があるため、交渉過程の公開は控えていただいております。
野球場を含む公園機能・公園価値・防災機能の維持に関するご質問	29	公園所管の立場からの説明が不足している。公園や保育室を長期間使えなくすることは理解できない。現状の公園を維持してほしい。	区の施策として仮設校舎を整備することは、公園所管も承知しており、可能な限り、公園機能の維持・緑地確保を前提に検討を進めてまいります。また、保育室については、待機児童の情勢に応じ検討してまいります。
	30	大山公園は高齢者、保育園、親子、地域交流に重要な場所である。地域行事、ラジオ体操、散歩、幼稚園の子どもの遊びなど日常利用を理解してほしい。野球場を残せば公園機能が残るということではない。	本公園は様々な方が利用されることを念頭に置き、計画を進めてまいります。なお、既存の公園機能や運用は可能な限り維持したいと考えておりますが、公園利用者の安全や施設配置の条件などを考慮しながら、今後の基本計画の中で検討してまいります。
	31	樹木や緑を守ってほしい。公園では樹木そのものが価値であり、緑地面積だけでは評価できない。	樹木も公園機能の一部として理解しています。樹木も含めた魅力的な公園機能の維持については、専門家等の意見等を踏まえることを検討します。なお、整備する範囲で干渉する部分につきましては、樹木診断を行い、可能な限り移植・保全に努めます。
	32	D案の車両動線の検討とは何か具体的にどのような検討か。物理的に成立しない可能性があるのか。	ごみ収集車や給食関係車両など、学校運営に必要な車両の動線を指します。現時点で成立しないとは考えていませんが、今後の検討の中で配置に若干の変更の可能性あります。
	33	仮設校舎の体育館や教室を地域に開放してほしい。	体育館、家庭科室、会議室などの地域開放を検討します。今後、地域利用のメリットも含めて丁寧に説明・検討します。
	34	各案の工期と費用比較や順位を示してほしい。	現時点では具体的な費用提示は困難ですが、青山キャンパスや西原キャンパスを例にすると、仮設校舎は約50億円程度が見込まれます。工期は、現況から土地利用が大きく変わるほど長くなることが想定されます。また、費用についても、工期に応じ増加することが想定されますが、今後計画を深度化させていく中でお示ししてまいります。
	35	公園の再整備による機能の維持向上、学校施設の地域開放など、もっと地域にとってのメリットについても説明すべきではないか。	地域や公園利用者の皆様からご意見を伺いながら、公園機能の維持向上や学校施設の開放等、ハードとソフトの両面から検討を進めてまいります。
	36	B案ありきのように見える。別案も公平に検討してほしい。	第1回の整備計画に関する近隣・公園利用者説明会でお示した4案の比較検討を進め、住民意見を踏まえて計画を作ります。
	37	音の影響は実例や数値で客観的に示してほしい。	既存事例や住民意見も踏まえ、今後説明内容を検討します。
	38	圧迫感や視線対策を具体的に示してほしい。	校舎配置、樹木配置などを含め、影響低減策を検討します。
	39	避難場所に仮設校舎を建てることについて東京都の確認は得ているのか。	本公園につきましては、公園部分のみならず地域一帯として避難場所指定を受けております。また、公園敷地内に約2,200㎡の仮設校舎を整備する本計画は東京都に共有し、差し支えない旨の回答を得ています。
	40	大型遊具・ジャングルジムなど子どもが楽しめる遊具を残してほしい。	安全基準の変化も踏まえ、公園所管部署と協議しながら、設置する遊具について検討を進めてまいります。
	41	野球場だけでなく、近隣住民の生活環境も重視すべき。平日は野球場利用が少ないので、野球場2面を前提とする根拠を説明してほしい	既存の公園広場機能を可能な限り維持することが重要だと考えておりますが、本公園にある少年野球場は、区内で唯一の設備であり代替性がないため、子どものスポーツ機会維持の観点から、残す必要があると考えています。野球場部分について、平日は1面を校庭として使用する一方、もう1面を公園広場として開放することで、公園機能を補完することができると考えており、本計画では野球場を2面残す方針としています。さらに、仮設校舎の一部を地域開放することにより、公園利用者のニーズに応えられるよう、今後検討してまいります。
	42	野球場、公園、保育園、ラジオ体操などの利用実態データを比較した上で、残す機能を検討すべきではないか。	既存機能を可能な限り維持していくことが重要であると考えており、利用率のみを判断材料として残す機能を決定するものではありません。
	43	第2回計画説明会資料中にて図示された「既存の公園の遊び場面積（2,500㎡）」は、実際に遊び場として使われている部分を反映していない。	図示した範囲以外にも当公園が広く遊び場として使われていることは、区としても十分認識しております。当資料にて図示した範囲は、仮設校舎建設後も遊び場として機能を維持できる範囲として設定しているものです。
	44	仮設校舎の利用終了後、公園は元に戻るのか。	仮設校舎は利用終了後に取り壊し、原状復旧を原則としつつも、新しい公園整備については地域意見を踏まえて検討します。
	45	防災機能として避難場所・一時集合場所の機能は確保できるのか。	仮設校舎を整備した上でも野球場2面を維持することで、広い空間を確保することができ、避難場所・一時集合場所の機能を確保できると考えています。